

## 2007年度 学部共同研究会一覧

回 / 日 時	テーマおよび報告者
第1回 (5月24日)	「<都市の哲学>構築へ向けて」 Frank Cunningham (カナダ, トロント大学教授)
第2回 (6月15日)	「私の研究」 「生活綴方の思想と「語り合う文学教育」」 伊藤 隆司 (産業社会学部教授) 「市民性育成をめざす社会科授業の開発」 角田 将士 (産業社会学部准教授)
第3回 (9月21日)	「社会的に排除される若者の実態調査を通して—ニート層に含まれる対人関係障害者を持つ若者の実態—」 佐藤 洋作 (NPO 法人文化学習共同ネットワーク代表理事)
第4回 (10月19日)	「私の研究」 「子どもの問い続ける姿勢を追い求めて 私の地を這い回る研究課題—理論と実践の狭間で—」 山下 芳樹 (産業社会学部教授) 「教授学的変換による学校数学の構成」 小原 豊 (産業社会学部准教授)
第5回 (10月26日)	「福祉国家スウェーデンの国際ソーシャルワークの取り組みから学ぶことは？」 訓覇 法子 (日本福祉大学教授, ミッド・スウェーデン大学准教授)
第6回 (11月16日)	「私の研究」 「学童期における認知発達の特徴」 竹内 謙彰 (産業社会学部教授) 「ひきこもる若者達と精神保健福祉実践の課題」 山本 耕平 (産業社会学部教授)
第7回 (11月22日)	「保守政権下でのスウェーデン・モデルの変化」 Carl le Grand (ストックホルム大学社会学部教授, 立命館大学客員教授)
第8回 (12月5日)	「ナイジェリアにおける芸術と芸術教育—ベニン大学を事例として—」 AUSTIN ASAGBA (ベニン大学教授) CHRIS UGOLO (ベニン大学講師)
第9回 (12月21日)	「私の研究」 「生権力と死をめぐる言説—安楽死・尊厳死論と生死の教育のつなぎ目—」 大谷 いづみ (産業社会学部教授) 「教え伝えることへの批判から模索する方へ—ポストモダンの知から大衆的な社会参加リテラシーへ—」 中山 一樹 (産業社会学部教授)
第10回 (1月17日)	「カナダ多文化社会の現在—『日系ボイス』編集長からの報告—」 田中 裕介 (日系ボイス編集長)
第11回 (1月25日)	「スポーツ史研究の国際的動向—ISHPESの歴史から—」 Annette Hofmann (ミュンスター大学スポーツ科学部講師, 国際体育・スポーツ史学会《ISHPES》学術委員, 理事)
第12回 (2月1日)	「中国語の新語・流行語研究の最前線—データバンクの構築とその課題—」 宍 世勇 (魯東大学中国言語文学学部教授)
第13回 (3月11日)	辻勝次教授定年退職記念研究会 「トヨタ労働者研究の経過と現状」 辻 勝次 (産業社会学部教授) コメンテーター 村上文司 (釧路公立大学教授)